

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名		乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ	
								183	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		23,460		26,623		施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円				

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わいわい子育て相談の実施回数		104 回	204 回	102 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 204回 (平成26年度)				50.0 %		
	わいわい子育て相談の参加者数				389 人		
	発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の参加者数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)		増加				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業であり、開催回数を増やすためには調整が必要であることから現状維持に留まりました。その後のフォローの場である「親子遊び教室」については、全区で開催されていることから、社会資源の充実とみなし順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施しており、多職種による多角的視点による相談支援がこの相談の特徴なので、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題の予防につながります。発達が気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達が気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、今後も効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置							掲載ページ	
								183	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,685	千円	3,642	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか		直営保育所へ「親子通園クラス」を設け、主に未就園児を対象に発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	親子通園クラスの利用者数（延べ数）		217 組	200 組	300 組	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	計画当初は目標数を実施箇所数（7箇所）としていたが、保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示すには、親子通園クラスの箇所数よりも利用者数が適当と考えられるため、指標として掲げました。						
	（最終目標と最終年度）＜7箇所、平成26年度＞200組（平成26年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ180組、東篠崎保育所は延べ120組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、保育所・幼稚園・療育機関等への移行先が決定した世帯も84%を超え、移行支援としての成果も出ていることから順調としました。全国的に先駆けた事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き、実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	発達障害者支援センターの充実							掲載ページ	
								183	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		31,809	千円	44,725 「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 発達障害の特性（人とうまくかわることが苦手、コミュニケーションの障害や強いこだわり等）から生じる本人の生活のしづらさや家族の負担など、発達障害のある人やその対応に苦慮している家族からの相談に応じ、発達障害のある人及びその家族への支援を行います。		活動実績			活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	発達障害のある人及びその家族の相談支援を行います。 発達障害のある人に対する就労支援を行います。 支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	発達障害者支援センターの相談支援・就労支援の延べ件数		3,262 件	増加	3,265 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害者支援センターでの相談支援や就労支援が、利用者の悩みや不安の解消につながるため、相談支援・就労支援の件数を活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
	（最終目標と最終年度）					やや遅れ	
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は延べ3265件の相談を受け、多くの利用者の方の悩みや不安の解消につなげることができたと考えられます。このことにより発達障害者支援体制が有効に働いており、成果の状況は順調であると判断されます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	発達障害者支援センター「つばさ」において、これまで築いてきた発達障害児者及びその家族等への支援ネットワークを活用でき、経済性・効率性は高いと思われます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
利用者のニーズに合った事業を継続し、相談支援・就労支援を実施します。支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修についても引き続き行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名		専門機関との連携による保育所での発達支援の充実						掲載ページ	
								183	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。		活動実績		活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援		—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 （最終目標と最終年度）						
	保護者支援の取り組み		—	—	—	順調	順調
	保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合い、共通理解を深めながら、個別の支援計画を作成し、保護者の悩みなどを支えます。子ども一人ひとりの状況に応じ、専門機関との連携を図ります。 （最終目標と最終年度）						

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも専門機関との連携を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、発達障害のある子どもへの支援の充実を図るとともに、全ての保育所で研修や施設見学、実習を行うなど、保育所職員の資質向上を図ります。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一環した支援を行える体制作りに取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	「発達障害者のためのサポートファイル」普及事業							掲載ページ	
								184	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,257	千円	44,725	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課
		「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。		「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。					

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 発達障害の方がライフステージを通じた一貫したよりよい支援が受けられるように、サポートファイル「りあん」の普及を目指します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	発達障害者支援センター「つばさ」を利用している保護者の方や支援者を中心に、サポートファイル「りあん」の作成目的、記入の仕方および利用の仕方等の説明し、配布します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	サポートファイル「りあん」の配布部数		249 人	維持	156 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害の方が一貫したより良い支援を受けることができるように、サポートファイル「りあん」を普及していきます。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
	（最終目標と最終年度）					やや遅れ	
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	昨年度よりも配布部数は減少しましたが、引継ぎが必要と思われる利用者の保護者に、記入の仕方や利用するメリットについて丁寧に説明を行い、理解を深めてもらっていることから、普及については順調であると考えられます。しかし、今後の配布数や活用状況を見ながら、内容の見直しも含めて検討を行い、更なる普及を目指します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市の発達障害支援の中核を担っている発達障害者支援センター「つばさ」において、保護者や支援者を中心に配布したため、サポートファイル「りあん」の周知を効率的に行うことができた判断されます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
サポートファイル「りあん」の普及や配布を行っていくとともに、活用方法の調査等を行っていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	発達障害者総合支援事業							掲載ページ	
								184	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		182	千円	44,725 (発達障害者総合支援事業の総額。本事業はその一部)	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 発達障害シンポジウムを行い、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者へ、発達障害についての理解・促進を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	発達障害シンポジウムの中で、発達障害の特性や、特性に合わせた具体的支援の取り組みについて講演を行い、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者への啓発を図ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	発達障害シンポジウムの参加人数	234 人	維持	234 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害シンポジウムの参加人数が、発達障害に関する理解・促進の判断基準となるため、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					
		やや遅れ				
	（最終目標と最終年度）				遅れ	順調

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前半は「脳からわかる発達障害」をテーマに、発達障害児者が困難としていることや支援のポイントについて基調講演を行いました。後半は小学校や児童発達支援センターの先生計3名に、「発達障害者の育ちを支える支援とは」をテーマに具体的な支援内容についてシンポジウムを行いました。234名の当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者の方が参加しており、発達障害についての理解・促進を図ることができたと判断されます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	発達障害者支援センター「つばさ」に、業務委託することで、これまで築いていた支援ネットワークを活用でき、当事者・家族や医療機関、教育関係者、福祉関係者への呼びかけを効率的に行うことができたと判断されます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後も、発達障害シンポジウムを行い、引き続き発達障害についての理解・促進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名		総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ	
								184	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		36,111	千円	34,130	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数		154 件	維持	139 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
	保育所等訪問支援事業の実施件数		183 件	増加	623 件	順調	順調
	保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害者支援センターおよび地域支援室の指導実施件数は、やや減少しているものの、保育所等訪問支援事業の実施件数が3倍以上増えていることから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援児事業専による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,550	千円	695,100	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）			活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取り組みを継続します。								
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】		
	施設一般指導事業実施件数		154 件	維持	139 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）								
									順調
	（最終目標と最終年度）								

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校からのニーズは続いており、前年度に引き続き派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備に向けて基本計画が策定されました。平成28年に西部分所開設、平成30年に本体開設予定です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名		医療機関との連携強化						掲載ページ	
								184	
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,257 「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。	千円	44,725 「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を） どのような 状態にしたいのか		医療従事者を対象に、発達障害に対する理解を促進します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医療機関において、発達障害の方との接し方や対応に役立てるために、医療従事者向けパンフレットを配布します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	パンフレットの配布数		2,700 部	増加	3,197 部	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害の特性や対応について記載したパンフレットを配布することにより、医療従事者の発達障害への理解が進むと考え、パンフレットの配布数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
						やや遅れ	
	（最終目標と最終年度）					遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害の方は、どのようなことが苦手なのか、また不安があって落ち着かないときはどのように対応したらよいのか等を記載したパンフレットを医療機関の方へ配布しました。発達障害の研修会の時には、医療関係者の方へも案内文を配布し研修の参加を促しました。医療従事者への発達障害の理解を促す取り組みは着実に進んでいることから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	パンフレットを活用することで、より多くの医療従事者の方に、発達障害の啓発ができたと思われます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
医療の現場においても、発達障害者の特性に適した対応が必要なことから、今後も発達障害に対する理解が深まるよう、医療従事者への働きかけを行います。